2018.9.1　第1200号
ISSN　0913-0217
発行人／長　瀬　　清
編集人／山　科　賢　児
発行所／北海道医師会
〒060-8627
札幌市中央区大通西６丁目
TEL(011)231-1432
FAX(011)221-5070

北海道医報

2018
9
月号

北海道 美の遺産　　高畠　達四郎　　橋（釧路）　　釧路市立美術館　所蔵

CONTENTS

北海道医報
平成30年9月1日

第1200号記念号

第1200号記念特集／巻 頭 言……長瀬　清、山科　賢児……3
記念寄稿記事……田之畑　仁、星　匠、勝嶌　早苗
林　浩史、桐澤　国男、高久　佳也、岩本　進、国井　美佐
山崎　裕侍、向田　陽一、源馬のぞみ、松岡　秀宜……4
医の倫理綱領……19
指標／在宅医療の限界……藤原　秀俊……20
速報／平成30年度北海道医師会賞受賞者決定！……23
報告／平成30年度 北海道医師会・北海道保健福祉部・道立病院局 懇談会……笹本　洋一……24
報告／平成29年度地域保健等に関する調査研究助成について……25
報告／「平成30年度北海道有床診療所協議会第１回総会」ならびに
「第31回全国有床診療所連絡協議会総会山口大会」……鈴木　伸和、伊藤　利道……26
報告／少子高齢化・人口減少時代の地域に定着する看護師・准看護師育成
医師会立准看護学校の入学卒後動向から……澤田　香織……28
報告／第52回北海道ドクターズゴルフ大会報告……上戸　敏彦……30
税務相談室／平成30年度税制改正……中村　孝一……34
北海道医歌人会詠草……35
医師のための法律相談コーナー／基礎から確認ワークルール(7)
－セクハラ・パワハラ・マタハラの基礎知識－……矢吹　徹雄、高橋　和征……36
会員のひろば……三浦　哲嗣、小谷　晃司、若松　章夫、海老澤良昭、澤田　典均、本田　泰人
斉藤　淳人、上田　征吾、中川　雅文、武井　明、加藤　秀則、宮本　顕彦、田村　正吾
岩田　顕、藤井　聡、林　泉、藤本　晶子……38
ポラリスを仰ぐ北の大地から……明円　亮、郡　正博……50
大通公園を望む窓辺から……橋本　洋一、阿久津光之……51
日本医師会生涯教育講座等開催情報……52
中央52　道南53　後志53　日胆54　空知54　道北54　北見55　道東56
その他（学会・医会・研究会等）56
日医認定産業医制度研修会開催一覧……58
日医認定健康スポーツ医制度再研修会開催一覧……62
道医の動き……62
訃報……63
新規指定医療機関……63
売貸医院・医師招聘情報……64
会議室／第９・10回常任理事会……68
道医師国保の頁……72
季節風／教育と医療の連携……藤井　美穂……80
お知らせ
2019年版医師日記（手帳）の申込み32／第32回全道医家磯釣大会のご案内33／第45回全道医家囲碁大会開催のご案内（予告）33／第31回（平成30年度）健康スポーツ医学講習会のご案内60／医師招聘に掲載をご検討中の医療機関の皆様へ67／中小企業等経営強化法・生産性向上特別措置法に基づく設備投資減税について（情報提供）71／第２回生命（いのち）を見つめるフォト＆エッセー作品募集71／北海道医師会は、北海道に在住するすべての医師が利用できる女性医師等支援事業を推進しています。75／北海道医報年間購読のご案内78／グループ保険のご案内79

北海道医師会会員数　8,337名（−19）　うち日本医師会会員数　5,836名（−20）

A	2,447名（−3）	B2	4,647名（−21）	C2	128名（±0）
B1	618名（+4）	C1	100名（+1）	C3	397名（±0）

平成30年7月31日現在　（　）内前月比

北海道美の遺産

写真・資料提供：釧路市立美術館
（釧路市幣舞町4番28号 釧路市生涯学習センター３階　0154-42-6116）

作品紹介

高畠（たかばたけ）　達四郎（たつしろう）　橋（釧路）

1895（明治28）年～1976（昭和51）年
東京生まれ。
制作年不詳。油彩・キャンバス（65.3×80.2cm）。

慶應義塾大学に進学するが、画家を志して中退、本郷洋画研究所で学ぶ。光風会、帝展に出品。1921年渡仏（'28帰国）。帰国後二科会、国画会に出品。1930年児島善三郎、林武、伊藤廉、三岸好太郎らとともに独立美術協会の創立に参加、創立会員となる。1952年毎日美術賞を受賞。1953年の渡欧以来何度も訪れ、その景色を作品に残している。1955年日本国際美術展で佳作賞を受賞。対象の美を直接的に感じ取り、美しい色彩で国内外の風景を描いた、日本を代表する洋画家である。

◇　◇　◇

空と橋、川にあたる夕焼けの色を、光の反射と影や風の流れなど多彩な色で表現している。優美なアーチで西欧風の大きな橋や川の流れと海流が交差して波立つ水面が、夕日に染められ溶け合う夕暮れの景色に心打たれる。何とも言えない遠い懐かしさを感じさせる郷愁を誘う作品である。

また、橋を往来するたくさんの人々、橋の向こうに集まる大漁旗がはためく漁船に活気付く港の様子は、当時の世相を映す重要な歴史資料でもある。